

本誌
略称

地理予 45(1994)

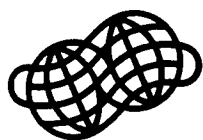
日本地理学会予稿集

45

1994年度総会・春季学術大会

4月4日～4月5日

明治大学



日本地理学会

1994

目 次

1994年度 春季学術大会プログラム（地理学評論第67巻3号の抜刷）

シンポジウム「地域環境変化と地理情報システム」…………… 2
（4月5日、13：00～17：00、第1会場）

特別研究発表…………… 6
（4月4日、10：00～12：00、第1会場）

一般研究発表（4月4日～5日）

101～116（第1会場）地形プロセス・高山地形…………… 14

201～237（第2会場）地形プロセス・開発・環境問題・地域研究（雲南・
フィリピン）・サンゴ礁地域・平野地形…………… 46

301～338（第3会場）気候・水文・テフラ……………120

401～436（第4会場）変動地形・地理教育・社会・地域研究・都市・
農林業・開発……………196

501～536（第5会場）計量・人口・産業・地域研究・文化・地図・歴史 ……268

ポスターセッション（4月5日）

P001～P005（第6会場）……………342

（内容紹介 4月4日、11：40～12：00、第2会場）

参加費 1,500円 予稿集会場価格 2,500円

この予稿集45号は1994年1月20日までに受付けた特別原稿を写真製版して印刷したものです。

1994年1月

日本地理学会集会専門委員会

1994年度 春季学術大会プログラム

1994 年度春季学術大会プログラム

1994 年度春季学術大会を下記の要領で実施いたしますので、多数の会員の参加を期待いたします。

1. 大会日程

4月3日(日)	14時00分～16時30分	評議員会(明治大学駿河台校舎研究棟4階第1会議室)
4月4日(月)	10時00分～12時00分	特別研究発表(第1会場)
	9時20分～15時20分	一般研究発表
	13時00分～15時00分	研究・作業グループ
	15時30分～17時00分	総会(第1会場)
	17時30分～19時30分	懇親会(学生食堂)
4月5日(火)	9時00分～17時20分	一般研究発表
	13時00分～17時00分	シンポジウム(第1会場)
	13時00分～17時00分	研究・作業グループ

2. 大会会場

明治大学和泉校舎(〒168 東京都杉並区永福1-9-1 電話 03-5300-1121 <大会期間のみ>)

大会本部 第1校舎1階第2会議室

第1会場 第1校舎211教室 特別研究発表・一般研究発表(101～116)・総会・シンポジウム

第2会場 第1校舎210教室 一般研究発表(201～237)

第3会場 第1校舎303教室 一般研究発表(301～338)

第4会場 第1校舎403教室 一般研究発表(401～436)

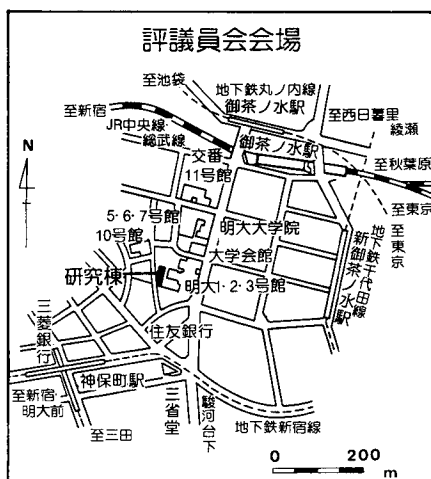
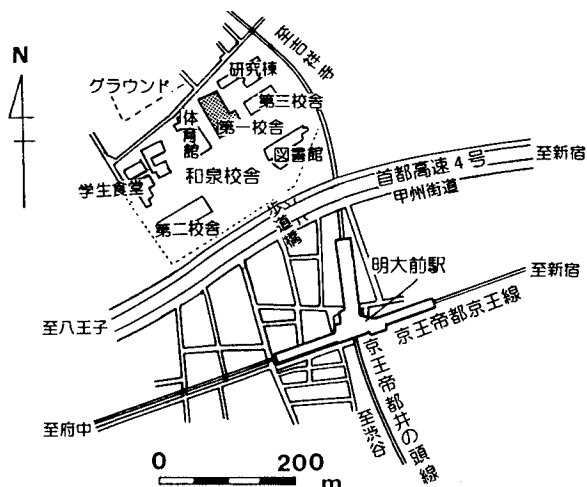
第5会場 第1校舎503教室 一般研究発表(501～536)

第6会場 第1校舎212教室 ポスターセッション

各種委員会および研究・作業グループは第1校舎2・3階で開催します。それらの会場および時間は大会当日に掲示します。

大会以前の連絡先 明治大学地理学教室 電話 03-3296-2257(松橋)・2258

3. 会場への交通案内



京王帝都電鉄京王線・井の頭線「明大前駅」下車、徒歩約5分
駐車スペースがありませんのでお車でのご来場はご遠慮下さい。

4. 大会参加の諸費用

大会参加費 1,500円 院生・学部生は1,000円
予稿集 2,500円 会場受付で販売いたします。
懇親会会費 5,000円 院生・学部生は3,000円

大会参加費と懇親会会費は当日会場で受け付けますが、それらの領収証発行は省略し、参加証（名札）の発行をもって代えます。とくに領収証を必要とされる方は、受付手続きの際にお申し出下さい。

5. 食事の案内

4月4日、5日とも、学生食堂が利用できます。

6. 大会参加者へのお願い

(1) 出張依頼状の必要な方は、1. 出張期間、2. 出張依頼状提出先、3. 依頼状送付（返信）先を明記し、返信用切手を同封のうえ、学会事務局までお申し込み下さい。

(2) 定期購読を予約されている方で予稿集が未着の場合は、学会事務局へお申し出下さい。

7. 一般研究発表について

発表番号の*印はスライド使用、°印はOHP使用、人名の*は口頭発表者を示します。

発表時間は討論、交代時間を含めて20分とし、1鈴12分、2鈴15分、終鈴20分となります。各人ごとに発表時間が固定されていますので、発表者および座長は、発表時間の厳守にご協力下さい。

なお、発表に使うスライド・図表・配布資料は、発表の3番前までに会場受付にお渡し下さい。スライドは15枚以内とし、発表者確認のもとにマガジンにセットします。

8. ポスターセッションについて

このセッションの発表については、4月4日（月）午前の一般研究発表の最後に第2会場で内容紹介のための発表時間（1人3分）を設けてあります。発表者はこの時間に内容紹介をするとともに、4月5日（火）10時から16時までの適当な時間帯に質疑・討論のための時間を少なくとも30分以上とるようにして下さい。質疑・討論に応じる時間帯をポスターセッションの会場（第6会場）に表示し、その時間帯に第6会場にるようにして下さい。

9. 大会役員

大会委員長 松田 孝

実行委員 小嶋 尚（委員長）、小堀 巖、江波戸 昭、杉原重夫、長岡 顯、藤田直晴、松橋公治、梅本 亨

10. 特別研究発表・一般研究発表座長表

		第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場
4月4日（月）	午前	T001 藤原健蔵 T002 堀 信行	201~204 松岡憲知 205~207 牧田 肇 P001~005 杉谷 隆	301~304 大和田道雄 305~308 谷治正孝	401~404 鈴木康弘 405~408 東郷正美	501~504 森川 洋 505~508 若林芳樹
	午後	101~104 田淵 洋 105~107 小泉武栄	208~210 今川俊明 211~214 宇都宮陽二朗	309~312 深石一夫 313~315 篠田雅人	409~412 桜井明久 413~415 岩本廣美	509~512 北村嘉行 513~515 藤目節夫
4月5日（火）	午前	108~110 岩田修二 111~113 小野有五 114~116 曾根敏雄	215~216 松本秀明 217~220 木庭元晴 221~224 目崎茂和	316~319 朴 恵淑 320~322 青山高義 323~325 森 和紀	416~418 千葉立也 419~420 實 清隆 421~424 磯部啓三	516~519 土谷敏治 520~522 溝口常俊 523~524 古賀正則
	午後		225~227 齊藤享治 228~230 遠藤邦彦 231~233 日下雅義 234~237 平井幸弘	326~329 新見 治 330~333 杉田倫明 334~338 奥村晃史	425~428 土居晴洋 429~430 安食和宏 431~433 澤田裕之 434~436 佐藤哲夫	525~527 中俣 均 528~530 羽田野正隆 531~533 服部昌之 534~536 斎藤 毅

第2日目 4月5日(火) 午後

第 1 会 場	第 2 会 場	開始時間
シンポジウム 地域環境変化と地理情報システム 〔オーガナイザー〕 久保幸夫（慶應大） 開始時刻 13:00	<平野地形> 225° 井上耕一郎（東京大・院）：沖積河川における河床堆積物の粒度組成と「河床高度変化」について 226° 岩船昌起*（東北大・院）・安斎秀樹（東北大・学）・田村俊和（東北大）：広瀬川中流の蛇行部における瀬淵河床の微地形変化 227° 吉川契子（静岡県立静岡城北高）：黄瀬川扇状地の地形発達 228° 大平明夫（名古屋大・院）：完新世におけるサロベツ原野の地形発達過程 229° 叶内敦子*・小嶋 尚・梅本 亨・竹迫 紘（明治大）・藤森徳雄（中部測地研）・杉原重夫（明治大）：伊豆半島蛇石火山大池の堆積物層序と花粉分析 230° 宮本真二（都立大・院）：京都盆地西縁・小泉川沖積低地における先史—歴史時代の地形環境——長岡京跡右京第368次調査地を例に—— 231° 中塚 良*（向日市埋蔵文化財センター）・中島正（山城市教育委員会）・中嶋史恵（奈良女子大・院）：京都盆地南部・天神川沖積低地の微地形分析——遺跡立地からみた天井川地形の形成過程—— 232° 阿子島 功*（山形大）・鈴木雅寿・佐野浩士（山形大・学）：山形県海岸平野と内陸盆地の遺跡分布と微地形——250 m 格子データベースから—— 233° 古谷尊彦*（千葉大）・阿子島 功（山形大）：モンゴル国スーゾーン平原周辺の地形・地質・遺跡立地に関する調査研究 234° 大矢雅彦*（早稲田大）・久保純子（早稲田大・非）：淀川水害地形分類図とスーパー堤防建設地点の評価 235° 久保純子（早稲田大・非）：東京低地水域環境地形分類図 236° 内田和子（岡山大）：治水と利水をめぐる地域間の対立と調整——兵庫県加古川見田井堰を例として—— 237° 平野昌繁（大阪市大）：日本の1950年代における空中写真の経時的地域的特性に関する予察的研究	13:00 13:20 13:40 14:00 14:20 14:40 15:00 15:20 15:40 16:00 16:20 16:40 17:00 17:20
1 Barry Garner（ニューサウスウェールズ大）：オーストラリアにおける環境研究とGIS 2 Milan Konecney（ブルノ大）：東欧における環境研究とGIS 3 Vladimir Tikunov（モスクワ大）：ロシアにおける環境研究とGIS 5 Brenda Faber（TERRA）：アメリカにおける環境研究とGIS 5 有蘭正一郎（愛知大）：重点領域で作成されたデータベース活用の基本的視点 6 恒川篤史（国立環境研）：UNEP/GRIDと環境地理データベース 7 佐野 充（日本大）：景観ダイナミクス 〔コメント〕 8 村上博史（国土地理院）：官庁から見た環境研究とGIS 9 福井弘道（住信基礎研）：民間から見た環境研究とGIS 10 中村和郎（駒澤大）：大学から見た環境研究とGIS		

第2日目 4月5日(火) 午後

開始時間	第 3 会 場	第 4 会 場
	〈水 文〉	〈都市・農林業・開発〉
13:00-	326* 岩下広和*(名古屋大・学)・恩田裕一(名古屋大):地質の異なる急峻な山地における流出特性の違い	425* 橋詰直道(駒澤大):都市緑地保全法の適用による緑地保全政策
13:20-	327° 長沼信夫(駒澤大)・深谷 元(駒澤大高):八重山列島における生活用水事情	426° 堤 純(筑波大・院):前橋市の市街地周辺地域における土地利用の転換過程
13:40-	328° 西村良司*(荒谷水源)・佐々木 健(広島電機大):狼滝川の水質について	427° 川口太郎(東京大):郊外住民の居住地移動に関する分析——埼玉県川越市における事例——
14:00-	329* 辻村真貴*・田中 正・榎根 勇(筑波大)・日下部 実(岡山大):山地源流域における土壌水の安定同位体比均質化機構について	428* 香川貴志(京都教育大):高齢化する千里ニュータウン——住宅の構造別・所有関係別にみた桃山台住区・竹見台住区の分析——
14:20-	330° 小野寺真一*(森林総合研・科学技術特別研究員)・加藤正樹・小林政広(森林総合研)・梶原規弘(高知県林試):茨城県北部山地の基盤地質によって異なる湧水の水質特性について	429* 近 武郎(新潟明訓高):戦後における木炭生産の動向と製炭者の意識——北海道を事例として——
14:40-	331* 河野 忠(日本文理大)・高村弘毅(立正大):大野盆地の地下水と湧水について	430° 内田 実(札幌大):北海道酪農構造の変化に関する一考察
15:00-	332° 安原正也*・風早康平・丸井敦尚(地質調査所)・鈴木裕一・高山茂美(筑波大):南八ヶ岳の深層地下水の涵養・流動プロセス	431 中島峰広(早稲田大):長野県北信地方の果樹園における畑地灌漑の発達と水利組織
15:20-	333° 田口雄作*(地質調査所)・佐藤 朗・大川戸貴浩(興和):早出川扇状地の地下水流動系	432 仁平尊明(筑波大・院):茨城県友部町におけるキク栽培の存立基盤
15:40-	〈テフラ〉	
15:40-	334° 奥野 充(金沢大・院):水蒸気噴火による降下テフラの体積	433° 村田啓介(立正大・院):通信販売方式による産地直送事業の伸展過程と事業展開——山形県の「サクランボ小包」を事例として——
16:00-	335° 三浦英樹(都立大・院):北海道北部地域の後期更新世海成地形面の対比・編年と最終間氷期海成地形面上の堆積土壌の層厚変化からみた土壌母材の起源	434* 池永正人(九州女子学園高):オーストリア、レンゲンフェルト村における農業経営の変貌
16:20-	336° 山縣耕太郎(上越教育大):北海道南部における火山灰土の層厚分布と粒度組成	435 木村 茂(早稲田大):北タイ農村の小作制度について
16:40-	337° 杉原重夫(明治大):テフロクロノロジーからみた伊豆諸島、八丈島における噴火史と地形発達	436* 平島賢三(日・タイ経済協力協会):タイ国経済社会開発計画と日系企業(4)
17:00-	338* 野村亮太郎*(神戸大)・小滝篤夫・井上陽一(京都府立綾部高)・相馬秀廣(奈良女子大):北近畿に分布する更新世末期の角閃石含有テフラ	
17:20-		

仁平 尊明
(筑波大・院)

【研究目的】

本研究は、キク栽培農家の生産と出荷の2つの側面から産地の存立基盤を明らかにすることを目的とする。

他の農産物と比較して切花の市場価格は時期的に大きく変動するため、産地は市場からの情報を迅速にとらえることが重要である。それゆえ産地は花きの生産面だけでなく、販売面への対応が必要となる。従来の花き園芸の地域的な研究では、農家の生産構造の側面から産地形成や地域的特色を論じたものが多く、出荷の側面から産地の存立基盤を考察した研究は少ない。花き産地は、生産と出荷が関連し合った固有の存立基盤を持っていると考えられる。

【研究対象地域と研究方法】

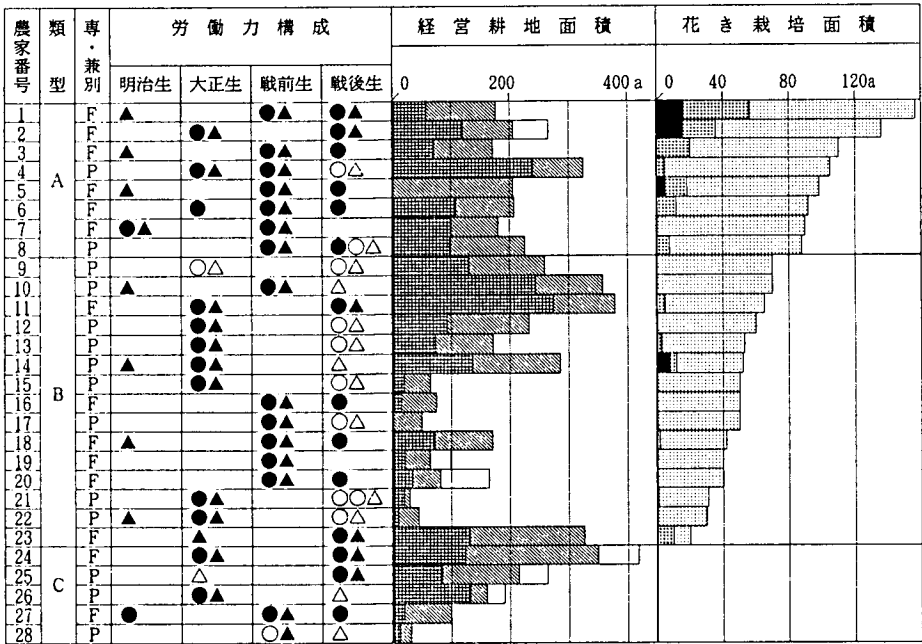
友部町では、1945年に先覚者によってキク栽培がはじめられた。現在、友部町は茨城県内最大のキク生産地である。1990年における栽培面積は、県内の30%にあたる39haであった。1992年7月における友部町産の小ギクは、東京大田市場での取扱量の21%を占めた。キク生産は7～9月が出荷の最盛期となる露地栽培が中心であり、業務用の安価なキクを大量に生産することに特色がある。友部町におけるキク栽培農家の約4割が随分付（なむさんづけ）地区に集中する。随分付地区における農家1戸あたりの栽培面積は69aである。

本研究では、まず友部町随分付地区の農家を花き栽培農家と非花き栽培農家に分類し、農家への聞き取り調査と農家台帳から生産構造を分析した（第1図）。次に、花き集出荷場での聞き取り調査から切花の出荷経路を明確にし、共選共販品目と個選共販品目の出荷量の相違に注目して市場別出荷量を分析した（第1表）。これらに基づいて、生産と出荷の側面からみた産地の存立基盤について検討を行った。

【結果の概要】

友部町におけるキクの出荷には、共選共販と個選共販の2つがある。共選共販は大規模市場への直接出荷が多く、個選共販は荷受会社を経由しての小規模市場への出荷が多い。友部町では個選共販の出荷が約7割を占める。近年は大規模市場の出荷要望に対応するため、共選共販の割合が高まっている。共選共販品目は価格が安定しているが、高品質を要求されるため、専門的農家が主体となって生産されている。友部町のキク生産が大・小規模市場への出荷を継続しているのは、一元集出荷の個選共販・共選共販体制の確立に負うところが大きい。このような一元集出荷体制は、強力な地域的組織である農協花き部会によって確立された。

共選共販を実現できた背景には、高い生産能力を有し、労働力の多い専門的園芸農家の存在がある。その一方で、小規模市場の需要には兼業農家を主体とする個選共販体制によって対応している。このように友部町のキク産地は共選共販と個選共販の2つの出荷体制により、大・小規模市場からの多様な要求に対応することができる。異なる出荷体制が1つの産地内に併存することが、友部町におけるキク栽培の存立基盤である。



A 類型：花き栽培面積80a 以上 B 類型：花き栽培面積80a 未満 C 類型：非花き栽培農家 F：専業農家
P：兼業農家 ●：男（農業） ▲：女（農業） ○：男（農外就労） △：女（農外就労）
■：水田 ▨：畑 □：果樹園 ■：鉄骨ビニルハウス ▨：パイプビニルハウス □：露地

第1図 友部町随分付地区における農家の労働力構成と経営耕地面積（1990年）
農家台帳および聞き取りにより作成

第1表 友部町花き集出荷場における切花の主な市場への出荷量（1992年2月1日～1993年1月31日）

出荷本数：100本

市場名 出荷形態	大 田 花 き (東京都)		南関東花き園芸 (神奈川県)		宇 都 宮 生 花 (栃木県)		土 浦 生 花 (茨城県)	
	出荷農家	出荷本数	出荷農家	出荷本数	出荷農家	出荷本数	出荷農家	出荷本数
個選個販	(随分付) 農家番号5	26	(随分付) 農家番号2 農家番号5	76 6	(随分付) 農家番号1 農家番号4 農家番号7 農家番号10 農家番号15 農家番号16 農家番号17 農家番号21	20 378 54 4 454 336 244 43	(随分付) 農家番号2 農家番号3 農家番号4 農家番号9 農家番号11 農家番号15 農家番号16 農家番号17 農家番号19 農家番号21 農家番号23 (その他) 15戸	5 502 205 4 24 245 477 63 85 62 9 1,520
	(その他) 10戸	407	(その他) 14戸	1,725	(その他) 11戸	2,472	(その他) 15戸	1,520
	小 計	433	小 計	1,807	小 計	3,995	小 計	3,201
	共選共販	15,530		13,052		10		0
共選率	97%		88%		0.2%		0%	
合 計	15,963		14,859		4,005		3,210	

※農家番号は第1図に対応

友部町花き集出荷場内部資料より作成